

振興会だより

第 61 号

発行 者

北海道静内農業高等学校
教育振興会事務局



もくじ

振興会長 西村 和夫 … 2

時代に先駆けた農業教育
校長 赤穂 悦生 … 3

教育振興補助事業報告 … 4

生徒活動成績 … 5

学科の紹介 … 6

進路動向 … 7

令和六年度の事業 … 8

あとがき … 8

静農で学んだ知識を基に

北海道静内農業高等学校教育振興会 会長 西村 和夫



令和六年度第四十七回卒業式を迎えられましたことを心よりお慶び申し上げますとともに、卒業されます第四十七期生の皆様にお祝いの言葉を贈らせて頂きます。また、保護者の皆様、静内農業高校の教職員の皆様におかれましては、今日のこの日を迎えられましたこれまでのご尽力に対しまして、教育振興会を代表して感謝申し上げます。

卒業生の皆さんにとって令和五年まで三年間継続したマイスター・ハイスクール事業プロジェクトから次のステージ、進化と飛躍を目指した一年間ではなかったのではないのでしょうか。静内農業高校の伝統である探究活動はもとより、商品開発による静農ブランドの取り組みや小学校を対象とした食育活動、更には各種地域の奉仕活動と多方向に渡りその活動の場を広げるとともに、農業高校本来の各種大会競技においては優秀な成績を上げるとともに食品企業や地元業者とのコラボ商品開発などその活躍は多くのマスコミに取り上げられ報道されたところです。

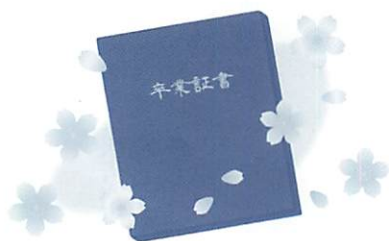
皆さんにとって高校生活三年間は個々人はもちろんのこと、チームとしての取り組みは発見から解決する過程までの知識や技能を深めるとともに皆さんがこの三年間で創造的な力を身に付けてきたのではないのでしょうか。また、こうした学習を通じて今までになく充実した三年間の高校生活は皆さんを大きく成長させ、たくましさも育まれたのではないのでしょうか。今後、皆さんはそれぞれの進路に向かって進むこととなりますが、静内農業高校で

学んだ多岐にわたる知識や技能を基に時代の変化を正しく捉え、今後待ち受ける困難に立ち向かい乗り切ることでより一層飛躍することを期待しております。また、将来北海道農業の最前線で活躍される皆さんの未来に幸多かれと心より祈る次第です。

今、世界では様々な地域紛争が起きております。私たちが住む日本が平和であることの幸せを心から感じるとともに、皆さんが学んだ三年間は農業の使命として生命の維持産業であることとの理解をしていただければ幸いかと思います。

最後になりましたが、私たち教育振興会としては、本校の教育活動が豊かになるよう保護者の皆様や教職員の皆様に運営のご協力を願いながら活動をして参ります。また、これからも地

域に根ざす活動を行っていただく本校の教育を力強く後押ししていく所存でございますので、振興会員の皆様のご協力をお願い申し上げます。振興会だよりのご挨拶とさせていただきます。





時代に先駆けた農業教育

北海道静内農業高等学校長 赤穂悦生

日頃より本校の諸事業並びに教育活動に対しまして、関係の皆様には多大なるご支援、ご協力を賜り、心より感謝申し上げます。

これまで専門高校は、地域産業を担う人材の育成を通じて産業経済の発展に重要な役割を果たしてきましたが近年では、デジタルトランスフォーメーション、六次産業化等、産業構造が抜本的かつ急速に変化していく中、職業教育を主とする学科を置く高等学校及び中等教育学校の後期課程等では、産業構造や仕事内容の絶え間ない変化に即応した職業人材の育成が急務となっています。

このため、文部科学省では、産業界、地方公共団体が一体となつて、最先端の職業人材育成に資する教育課程等に関する研究開発を行う取組を「マイスター・ハイスクール事業」として認定し、地域の持続的な成長を牽引し、絶えず進化する最先端の職業人材育成を推進してきましたが、さらにこのマイスター・ハイスクール事業の成果を全国に横展開し、全国各地で地域特性を踏まえた取組を加速化させようとしています。しかしながら、マイスター・ハイスクール事業のように、産業界等と一体となつて教育を充実するためには、その基盤となる産業界等との密接な連携体制の構築や、産業界と教育界をつなぐコーディネート機能が必要不可欠になるところです。

そこで、地域における産業界等と専門高校の連携体制構築を通して産業人材育成のための教育充実を目指す取組を「マイスター・ハイスクール普及促進事業」として、今年度、全国に先駆けて静内農業高校のマイスター・ハイスクール事業の成果をより広域的に普及すること、全国的に産業界等と専門高校の連携体制強化による産業人材育成のための教育の充実を推進していくことになりました。

主な取り組み内容

①最新・最先端技術研修
各校が産業界等との連携のもとで、各分野における最新・最先端技術について、外部講師招聘や先進事例観察等を行えるようにする。

②全学科横断・協働型探究学習
各校の学習プログラムの開発、例えば、「持続性」を共通の主題として、一年次で「知る」ことを目的に、他学科の分野を学び、二年次では「考える」ことを目的に、一年次に興味を持った（他学科の）分野をテーマに探究学習を行う。三年次は「深める」ことを目的に、自分の所属する学科で専門分野の課題解決学習を行う。このように、横断的かつ学年に応じた体系的なプログラムにすることで、例えば三年次の課題解決学習では、仮にこれまでと同様の学びをしていたとしても、自分の専門の役割や機能をより明確に深く認識することができ、高い課題意識を持った生徒が育成できるのではないかと期待できる。

その他に、各校が産業界等と一体となつて取り組める連携体制の構築に向け、事業運営委員会を設置し、委員は、大学や産業界、行政機関、教育機関といった所属に加え、学科の専門分野のバランスが良くなるよう各方面から選出し、事業達成のための課題や展望を明確にして、支援や連携の在り方、教育プログラムの効果について検証等を行うようにする。

③産学連携コーディネーターの任用
各校の課題と展望を踏まえ、産業界等との連携構築にあたっては、両者のニーズをもとに的確なマッチングが図れるようにするべく、産学連携コーディネーターの配置。任用にあたっては、産業界と学校との連携について実績のある人材を選出をする。

④カリキュラムアドバイザーの任用
各校の産業界等との連携が校内で適正な教育プログラムとして機能できるようにするため、カリキュラムアドバイザーを任用する。

⑤事業成果の検証
こうした、各専門家の得意分野を生かした分業体制を敷くことで、産業界等と学校とが効果的に連携できる体制を整えるとともに、校内での事業推進を図るようになる。

この年度末に、事業計画の進捗やその成果について評価を行う。まずは、各学校による自己評価を行い、進捗遅れや成果の

小さい取組等があった場合は、修正案を作成する。続いて、事業運営委員会において、自己評価や修正案についての妥当性を協議し、次年度に向けた改善策を検討する。

現在、普及事業を進めていく中で、様々な課題が生じていますが、静農がもつ高いポテンシャルが最大限に発揮され、全道の農業高校、ひいては、産業系の学科を有するすべての学校のモデルとして、その普及を推進させたいと考えています。そして、このような取り組みが産業界をはじめ、自治体の信頼を得ることになり、結果として中学生が目指したい学校になると確信しています。

今後も教職員と生徒が共に地域の現状を直視し、地域の課題を学校の課題として捉える視点をもちながら静内農業高校だからこその生徒が主役の取り組みを教育実践の主軸として、努めて参りますので引き続きご支援ご協力を賜りますようお願い申し上げます。



教育振興補助事業報告

今年度も地域の皆さまのご支援をいただきながら、生徒の学習活動が円滑に進むよう取り組んで参りました。令和三年度より令和五年度まで行われてきたマイスター・ハイスクール事業は、研究指定期間が終了したものの、新たに静農コンソーシアム事業を立ち上げ、マイスター・ハイスクールで培ったノウハウを継承し、教育の質を低下させることないよう取り組んで参りました。また、地域との連携は更に深まりを見せており、人的資源を活用した学習を通して、地域や地域産業が抱える課題の解決を図ろうとする姿が多数見られました。また、生徒同士でもお互いの頑張りに触発され、学習活動やプロジェクト学習、部活動に意欲的に取り組む姿が様々な場面で見られております。そうした生徒の取組の中から代表的な活動をご報告いたします。

静農オープンキャンパス

◎開催日
令和六年八月二十三日
令和六年九月二十一日



◎場所 静内農業高校
一回目は百五十名（道外二十五名、管外十四名）、二回目は五十一名（道外十六名、管外二十名）の参加がありました。今年も道外を含む多くの参加者が来校しました。
今回は在校生との座談会を企画し、在校生が静内農業高校に入学した理由や、入学後の生活の変化、静内農業高校の魅力などを伝えるとともに、参加者からの不安な声に答える取組を実施し、静内農業高校をより深く知ってもらうことができました。
また、これまで行われてきた進学相談会を充実するとともに、保護者や中学校教員向けの学校説明会も実施し、本校の教育活動への理解を深める機会とすることもできました。

2024サマーセール

◎開催日

令和六年八月二十一日

◎場所

日高軽種馬農協
北海道市場



本校で昨年生産した「ナリタトッププスター二〇二三」（父アニマルキングダム）「マドリガルスコア二〇二三」（父ミスチヴィアスアレックス）の二頭を上場しました。
今年度は、本校創立以来、初めての複数頭の上場でした。セリでは、最終的にナリタトッププスター二〇二三が百五十万円（税別）で日本中央競馬会様、マドリガルスコア二〇二三が二四〇万円（税別）で峰哲馬様に落札されました。セリの様子を見守っていた生徒達からは、売却が決まった瞬間笑顔が溢れました。今後の二頭の活躍を期待します。

第75回日本学校農業クラブ全国大会令和6年度岩手大会

◎開催日

令和六年十月二十三日

◎場所

岩手県
（水）二十四日（木）



全国大会には、「意見発表会」、「農業鑑定競技会」、「農業情報処理競技会」、「クラブ員代表者会議」四種目・計八名の生徒が参加しました。「意見発表会」の分野Ⅲ類には、本校生産科学科三年の木部 千乃さんが出場し、優秀賞を受賞。「農業鑑定競技会」の分野「野菜」には、生産科学科三年の清水 陽人さんと城越 美羽さん、分野「食品」には、食品科学科三年の渡部 めいさんが出場し、三名全員優秀賞を受賞することができました。

第十二回高校生チャレンジグルメコンテスト

◎開催日

令和六年十月五日

◎TKPガーデンシティ
札幌市で開催された標記コンテストに、本校から二年生の四名が出場しました。



出場生徒は、地元食材の豚肉や昆布、ハチミツを活用したご当地チャーシューを地元企業と連携し、開発した内容の発表を行いました。
結果は、本校としては三年連続で総合的に最も優れたチームに贈られる「チャレンジグルメ大賞（北海道知事賞）」と優れたプレゼンテーションを行ったチームに贈られる「H.T.B賞」のダブル受賞を達成することができました。
今後も地元食材を活用した商品開発を行い、地元産業の活性化に寄与できるように学習活動を展開していきます。

[illegible]

育活動に努めていきます。教育の育成を旨とし、担う産業人

◆ 教育特色 ◆

[illegible]

んて参ります。創りに出組の
イ教育活動を實踐し、地
ノ活動度を更に充実にす
ハタシテ、来名を自走して
農工コソシテ事「素と」

[illegible]

進路動向

コロナを経て、就職と進学
の状況は大きく変化して
います。

就職におきましては、少
子化の影響から、売り手市
場が続いており、これまで
大卒の求人しか出さなかつ
た大手企業も徐々に高卒で
の求人が出るようになって
きました。また、これまで
生徒が作成した履歴書や学
校が作成した調査書をもと
に面接のみを行い、採用の
可否を判断していた企業が、
コロナを経て、面接だけで
はなく、適性検査や筆記試
験、作文等を実施し、採用
の可否を多角的に判断する
ようになっていきます。

進学におきましては、こ
れまで筆記試験を伴う入試
方法が一般的でしたが、数
年前より、推薦入試と総合
型選抜が徐々に拡充され、
今では、全体の入学者の半
数以上が推薦入試と総合型
選抜となっています。学習
指導要領が改定され、大学
入試においても知識偏重
の入試から、思考力・判断
力・表現力や学びに向かう
人間性を評価する入試へと
改革が進められているため
です。その結果、これまで
目指すことが困難であった
大学も、入試方法によって

は早期から対策できれば、
現実的に目指せる可能性が
高まっています。

ここ数年、どこの学校で
どんなことを学んだかを重
視する『学習社会』から、
これまで何を学び、どんな
力をつけてきたかを重視す
る『学習歴社会』に変化し
てきました。ただ漠然と進
学や就職と考えるのではな
く、①自分は将来、何を目
指すのかを具体的に考え
る（目標設定）②目標を達
成するために必要な進路を
自分で選択すること（進路
選択）③将来の目標を達成
するために必要な知識や経
験が得られるよう、自らが
動していくこと（実践）が
求められます。しかし近年、
自分に自信が持てず、進路
決定までかなり時間を要す
る生徒が目立ってきました。
考えているだけでは、自分
の可能性に気づくことはで
きません。これまで経験し
たことがないことに積極的
に挑戦し、自分の可能性に
気づき、卒業後、自分らし
く生き生きとした人生を送
ることができるよう取り組
んでほしいと思います。

主な進学先

◆大学・短大◆

- 酪農学園大学 獣医学類 (江別市)
 - 酪農学園大学 循環農学類 (江別市)
 - 帯広畜産大学 畜産学部 (帯広市)
 - 北海道教育大学 国際地域学科 (函館市)
 - 藤女子大学 ウェルビーイング学部 (石狩市)
 - 北海道文教大学 医療保健科学部 (恵庭市)
 - 北里大学 獣医学部 (神奈川県)
 - 帝京科学大学 作業療法学科 (東京都)
 - 山野美容芸術短期大学 インナービューティーコース (東京都)
- ◆専門学校・各種学校など◆
- 経専札幌ミュージック&エンターテインメント専門学校 コンサート制作・マネージャーコース (札幌市)
 - 北海道美容専門学校 トータルビューティー (札幌市)
 - 専門学校札幌デザイン学院 (札幌市)
 - 北日本自動車大学校 (芦別市)
 - 北海道立農業大学校 畜産経営学科 (本別町)
 - 日本軽種馬協会 生産育成技術者研修 (新ひだか町)
 - 日本装蹄蹄協会展蹄教育センター (栃木県)

主な就職先

◆町内・日高管内◆

- 日本軽種馬協会 静内種馬場 (新ひだか町)
- 本桐村田牧場 (新ひだか町)
- 幸牧場 (新ひだか町)
- 日高徳洲会病院 (新ひだか町)
- 環境整備公社 (新ひだか町)
- 新河建設 (新ひだか町)
- ビッグレッドファーム (新冠町)
- ケイセイマサキ建設 (新冠町)
- 北海道日高乳業 (日高町)
- 木村牧場 (日高町)
- 手塚組 (浦河町)

◆北海道内◆

- 北海道立学校実習助手 (北海道)
- 北海道行政職員 (北海道)
- 陸上自衛隊 (北海道)
- 日本郵便 (北海道)
- どんぐり (札幌市)
- 北海道ナースリー (札幌市)

◆北海道外◆

- 一般社団法人ヒポトピア (茨城県)
- エフサステクノロジーズ (東京都)
- 東日本グリーンウッドトレーニンク (滋賀県)
- ジーガイア (札幌市)
- マイステイズ・ホテル・マネジメント (札幌市)
- 中セキ北海道 (岩見沢市)
- 柳月 (音更町)
- ノーザンファーム (安平町)
- 社台コーポレーション (白老町)
- 白老ファーム (白老町)
- 苦小牧信用金庫 (苦小牧市)



令和6年度 進路決定状況一覧

(令和7年1月31日現在)

	食品科学科		生産科学科		2学科合計		
	男	女	男	女	男	女	合計
進学合計	2	2	4	8	6	10	16
大学	0	1	2	5	2	6	8
短大	0	0	0	1	0	1	1
専門学校	1	1	0	2	1	3	4
その他	1	0	2	0	3	0	3
就職	8	6	13	7	21	13	34
自営	0	0	0	0	0	0	0
その他	0	0	0	1	0	1	1
進路決定者合格	10	8	17	16	27	24	51
在籍数	13	8	18	17	31	25	56
進路決定率	77%	100%	94%	94%	87%	96%	91%

令和六年度の事業

令和六年度教育振興会総会が令和六年六月二六日に開催されました。議案として、令和五年度の事業報告、同決算、監査報告並びに令和六年度事業計画案、同予算案が審議可決されました。十五名の参加者のなか、本校校長より当振興会の会員の皆様から提出していただいた運営費が、農業高校の貴重な財源となっていることが報告されました。

- (1) 1 教育振興

ア 農業教育振興補助事業

イ 資格取得

ウ 補助事業以外の資格に関する取り組み

エ 地域連携農業教育活動

オ 農業クラブ活動
- (2) 2 生徒募集対策

ア 生徒募集関係

イ 生徒募集の柱

ウ 活動内容
- (3) 3 部活動

ア 部活動振興

イ 馬術部活動
- (4) 4 キャリア教育の推進

ア 「課題研究」との連携

イ インターシップの実施

ウ デュアル派遣実習

エ 企業派遣実習の実施

オ 進路対策講座の開催

カ 進路保護者説明会の開催

キ 日高教育局進路相談員、ハローワーク、地元企業、ロータリークラブや専門学校等の協力による面接指導

選抜結果

(3) 入学者数の分析

ア 各学科の地域別入学者数

項目だけの紹介となりましたが、多くの活動が教育振興会に支えられています。



顧問	大野 克之
会長	(新ひだか町町長) 西村 和夫
副会長	(しずない農業協同組合 副組合長) 前川 隆範
副会長	(新冠町農業協同組合 代表理事組合長) 桑 田 美智代
副会長	(ひだか東農業協同組合 代表理事組合長) 澤 田 祐喜
副会長	(みつし農業協同組合 代表理事組合長) 赤穂 悦生
副会長	(北海道静内農業高等学校長) 高橋 史人
監査	畠 山 史人

監査	遊 佐 繁 基	部 員	岡 本 昌 市
理事	(日本軽種馬協会 静内軽種馬場場長) 古川 雅 且	部 員	石 川 榮 一
理事	(日高軽種馬農業協同組合 代表理事組合長) 仲 山 浩	部 員	佐 竹 英 之
理事	(びらとり農業協同組合 代表理事組合長) 浮 島 理	部 員	橋 本 健 太 郎
理事	(日本中央競馬会日高育成牧場場長) 本 間 充	部 員	工 藤 淳
理事	(門別農業協同組合 代表理事組合長) 山 田 諭	部 員	(事務長) 中 村 玲 子
理事	(静内稲作振興会会長) 小 倉 正 信	部 員	(教諭) 野 坂 涉
理事	(静内酪農振興会会長) 中 西 信 吾	部 員	(教諭) 田 中 彩 佳
理事	(本校教育振興会馬事教育専門部部長) 藤 博 文	部 員	(教諭) 興 村 航 平
理事	(北海道静内農業高等学校 PTA会長) 遠 藤 博 文	部 員	(教諭) 明 石 哲 己
理事	馬事教育専門部	部 員	(実習助手) 山 西 勝 己
部長	中 西 信 吾	部 員	
部 員	西 村 和 夫	部 員	
部 員	畠 山 史 人	部 員	
部 員	遊 佐 繁 基	部 員	
部 員	小 島 謙 治	部 員	
部 員	細 川 博 之	部 員	

あとがき

今年度も、教育振興会は生徒の活躍や学校運営の更なる発展に寄与すべく、校内外で展開される諸活動に協力し、各種行事等に対する活動費の補助など、事業計画に基づき支援してまいりました。

次年度より、教育振興会は静農コンソーシアム事業の中で機能して参りますので、今後の活動に対してもご理解とご協力賜りますようお願いいたします。